

おてつだい帳^{ちょう}



しょうがっこう
小学校

ねん
年

くみ
組

なまえ
名前

しょうがく ねんせい
小学1年生のみなさんへ

みなさんは、おうちでどんなおてつだいをしていますか？

おてつだいは、おうちの人の役にたちながら、いろいろなことができるようになったり、おぼえたりできるとてもよい活動です。今まで、あまりおてつだいをしたことがなかった人も、夏休みをきっかけにしておてつだいを始めてみましょう。

どんなおてつだいができるのか、おうちの人と話し合っ、この「おてつだい帳」にきろくしましょう。楽しく、そして進んで、おてつだいができるようになるといいですね。

よくできたかどうかは、お家の人に◎や○などのしるしをつけてもらったり、シールをはってもらいましょう。

学年が上がるにしたがって、できることがだんだんとふえていき、この「おてつだい帳」がなくても、自分から進んでおてつだいができるようになれるとすばらしいですね。

年 月



今月のおてつだい

ようび	日	月	火	水	木	金	土
日にち							
おてつだい のきろく							
日にち							
おてつだい のきろく							
日にち							
おてつだい のきろく							
日にち							
おてつだい のきろく							
日にち							
おてつだい のきろく							

おうちの人のことば

日にちを書きくわえてつけてください。

保護者の皆さまへ

お手伝いのすすめ

お手伝い（家事役割分担）は、家族の一員としての役割を果たすと同時に、働く経験をし、様々な生活能力を身につけるなど、お子さんの成長や自立を促す活動です。

また、自分が人の役に立っていると実感するとともに、相手を思いやる気持ちが育まれるなど、自信・自己有用感・自尊感情を育みます。市内の学校の多くの教員も、子どもたちの成長にとって大切な活動の一つに「お手伝い」をあげています。

「手伝いをよくしている児童生徒ほど道徳観・正義感が高い」という調査結果もあり、子どもの心の成長によい影響があるとも言われています。また、お手伝いをきっかけに親子の会話が増え、よりよい親子関係も築くことができます。

お子さんの成長とともにお手伝いの種類や内容は変化しますが、大切なのは次の点です。

<少し頑張ればできること>

手伝ってほしいことがあったら声をかけてみましょう。「少し頑張ればできること」や「あまり負担にならないこと」が継続の秘訣です。しつこく意識するよりも、お子さんといっしょに楽しみながら取り組み、お手伝いの習慣を身につけるのがよいでしょう。

<ほめること>

お手伝いをしてくれたら、「ありがとう」「とても助かるよ」と感謝の気持ちを伝えましょう。ほめることで、子どもは自信をもち、自己肯定感が高まります。お手伝いを続けようとする意欲もわきます。

<長い目で見守ること>

最初は時間がかかったり、失敗したりすることもあると思います。お手伝いをしたことをほめ、あせらずに長い目で見守りましょう。毎日でなくてもよいです。



お手伝いの例



食事の準備や片づけ

- 野菜、果物を洗う
- 野菜の皮むき
- りんご等の皮むき
- かきまぜる、こねる、する、おろすなどの簡単な料理
- 米とぎ、ご飯炊き
- 卵割り
- 火を使う料理
- 包丁を使う料理
- 食事の配膳準備
- テーブル拭き
- 食器を並べる
- お箸を並べる
- お茶を入れる
- ご飯をよそう
- 食事の後片付け
- 食器を流しに運ぶ
- 食器洗い
- 食器拭き
- 食器を食器棚に運ぶ
- 必要なものを冷蔵庫から出し入れする

せんたく

- 洗濯物を干す
- 洗濯物をとりこむ
- 洗濯物たたみ
(ハンカチ、タオルなど簡単なものから)
- たたんだ洗濯物をしまう
- 上履き洗い

おそうじ

- おもちゃの片付け
- 部屋の片付け
- 玄関掃き
- くつをそろえる
- 窓拭き
- 掃除機がけ
- お風呂掃除
- トイレ掃除
- 本棚の整理
- 雑巾がけ
- 掃き掃除
- ごみをごみ箱に入れる
- ゴミ出し

その他

- カーテンや窓の開け閉め
- 新聞をとってくる
- ペットの世話
- 回覧板まわし
- 布団を敷く
- 荷物持ち
- 弟妹の世話
- 買い物、おつかい
- 家庭菜園
- 花の水やり
- 草取り
- 家電の簡単な操作
- 車洗い
- 夏の水まき
- 雪かき
- 新聞、雑誌しばり



